

スタンフォード大学の図書館の思い出

理工学部 生命科学科 講師 加川 尚

1. はじめに

平成20年9月から平成21年8月までの1年間、在外研究の機会をいただき、アメリカのスタンフォード大学に留学した。今回、留学先の図書館の紹介について原稿依頼を受けたが、実のところ、私は留学中、ほんの数える程度しか図書館を利用していない。勿論、本学にいるときは、特に講義の準備をする際に、図書館の資料が欠かせないというまでもなく、常日頃お世話になっている。しかし留学中は研究三昧である。図書館をあまり利用しなかったのはもったいないと思われるかもしれないが、私は1年間という限られた留学期間を、少しでも長く研究室のメンバーと一緒に過ごす時間に充てたかった。加えて、私の場合、研究に関する参考資料のほとんどが電子ジャーナルに掲載されている論文である。後述するがスタンフォード大学で利用可能な電子ジャーナル数は膨大であるため、調べたい論文のすべてを図書館に行かずともWEBで全文閲覧することができたのである。このような私がタイトルにあるような内容を語るのは気がひけるが、数少ないながらも訪問したスタンフォード大学図書館や資料館の情報と、そこで私が感じたことの一部を記載させていただく。

2. 大規模な大学図書館

スタンフォード大学はカリフォルニア州サンフランシスコから約60km南に位置するパロアルト市にある。大学は広大な敷地面積(約33km²、ただし市外にある附属研究所を除く)を有しており、自転車か無料の学内循環バスに乗って移動しないと大変なことになる。特

に夏場はカリフォルニア独特の強烈な日光が降り注ぐので、気温が高くなくとも歩いていると干上がってしまいそうになる。これほどまでに広い学内において、図書館はありがたいことに至る所に点在している。図1は学内の主要な建物の配置図を示している。図中の番号で示された建物が図書館であり、合計22ある。これらの図書館のうち、私が足を運んだことがあるものは、留学先のラボがあった生物学部にある分館、セミナー聴講やランチのためによく出向いた医学部にある分館、本館とも呼べるレベルの大きな2つの図書館(Meyer LibraryとGreen Library)の計4館である。その他の図書館も、各学部に付属した分館や、資料館として機能しているものである。各学部付属した分館には、それぞれの分野に特化した書籍などの資料が保管されており、当然、利用者も学内の研究者や大学院生に限られてくる。

LIBRARIES of Stanford University

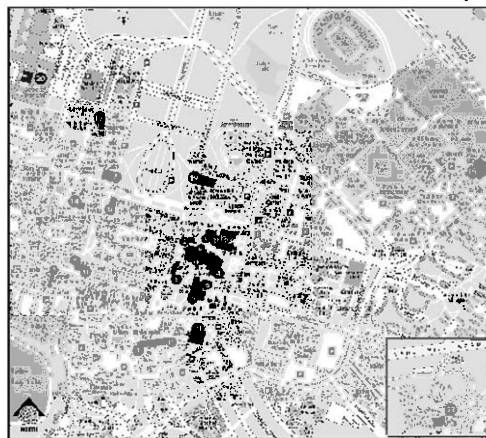


図1. 学内地図(番号表示されたところが図書館)

一方、Meyer Library と Green Library は大規模な図書館で、一般公開されているため、大学関係者のみならず多くの市民が主に館内の書物の閲覧に利用している。このためセキュリティも高い。利用者は全員、ID を Meyer Library で発行してもらい、すべての図書館の入退館にはこのIDが必要となるが、たとえば入館時にはバックなどは預けなければならない。また、大きい図書館はそれだけ蔵書が多いのであろうが、広すぎて館内で迷子になりそうになったこともある。このように少々不便に感じることもあるが、その不便さを補うほどの利点は多い。以下、主に Meyer Library の情報（2009年現在）を記す。



図2. Meyer Library

- ・ 開館時間：書庫 8am-1am（閲覧室、勉強スペース、ディスカッションルーム、PC室は毎日24時間開館）
- ・ 蔵書数（印刷されたもの）：850万冊
- ・ 電子書籍：150万冊
- ・ 定期刊行物：75,000種類
- ・ オーディオ資料：約150万冊

- ・ マイクロフィルム化資料：600万冊（Green Libraryのみ）
- ・ 電子ジャーナル：1500誌
- ・ 館内説明ツアー：135回／年



図3. Green Library

これでもかというほどの資料の数々である。定期刊行物のなかには日本の新聞や雑誌などもあるため、日本語の活字が恋しくなったときは便利であろう。

資料数の多さに加えて、特記しておきたいのはやはり開館時間である。館内には閲覧室を始め、勉強スペース、会議室、PCルームなど、自由に使える広いスペースが確保されていた（図4）。これらのスペースが年中24時間使えるのは、利用者にとってうれしいことである。このサービスは海外の他の大学でも同様にみられるようである。そんなに遅くまで開館していて、本当に利用者がいるのだろうかかと半信半疑で一度だけ夜中に確かめに行ったことがある。定期試験の期間中ではなかったが、多くの学生が自分のPCを片手にレポートのようなものを真剣に作成していた。のち



図4. 館内のフリースペース

に研究室の学部生に聞いたところ、大学では授業時間外に作成せねばならないレポートが非常に多いこと、スタンフォードではほとんどの学部生が学内にある寮で共同生活をしており、集中して勉強するには図書館が良いことなどを教えてくれた。図書館の利用者が夜中でも（むしろ昼間よりも）多い理由が分かったのと同時に、深夜に図書館で勉強する学生などいるのだろうか一瞬でも疑った自分を恥じた。

この他、学内使用に限りPCソフトの無料使用が可能サービスもあった。このサービスも図書館の Academic Computing Group なる部門が担当している。統計や画像解析ソフトなど、比較的高価なソフトが無料で自分のPCにダウンロードでき、大学が発行しているシリアルを入力すれば学内で自由に使用できたのはとてもありがたかった。

3. 資料館

大学関係者が多く利用する図書館に加えて、学内には資料館もいくつかある（学内にはなんと美術館まであるが、図書館とは独立しているため、ここでご紹介するのは控える）。たとえば、第31代アメリカ合衆国大統領である Herbert C. Hoover 氏（1895年スタンフォード大学卒）が在学していた当時のアメリカの歴史を紹介している資料館や、スタンフォード大学の創立者であり大陸横断鉄道の創立者でもある Leland Stanford 氏に関する貴重な資料が展示されている資料館は、新入生のみならず観光者にも必ずといっていいほど紹介される人気スポットである。特にスタンフォード大学の歴史が展示されている資料館では、アメリカの西部開拓時代の晩年と重なる大学設立当時（1891年）の文化や、スタンフォード氏の大学設立に至った背景や強い意志を感じた。機会がある方は是非訪問していただきたい。

この他にも大小さまざまな資料館が学内に点在している。コンピュータ・サイエンスに関する資料館もその一つで、そこではスタ

ンフォード大学の出身者が創設した Yahoo、Google、SUN Microsystems、Hewlett-Packard などのIT企業が軒を連ねているシリコンバレー（大学の近所にある）の歴史を知ることができる。このような資料館に足を運ぶと、資料そのものの興味深さは勿論、地域に貢献している大学の姿を垣間みた気がした。

4. おわりに

この原稿は帰国してから2年経過した後で作成したものである。図書館の情報は2009年の留学当時の情報であるため、若干古い情報になっているかもしれない。しかし、本原稿の作成にあたっては、留学当時のことを鮮明に思い出しながら書くことができた。そういう意味でも今回の原稿依頼はとても良い機会になった。ここにお礼申し上げる。そして何よりも、長期在外研究という素晴らしい機会を与えて下さった本学に、あらためて感謝申し上げます。